

レポート 3

2019/10/15 Shin-ichi Sasa

問題 I. i 番目の微粒子（質点）の位置を \mathbf{r}_i 、運動量を \mathbf{p}_i と書き、そのミクロな力学状態を $\Gamma = (\mathbf{r}_1, \mathbf{r}_2, \dots, \mathbf{r}_N, \mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \dots, \mathbf{p}_N)$ と記す。この系のハミルトニアンを

$$H(\Gamma; V, N) = \sum_{i=1}^N \frac{|\mathbf{p}_i|^2}{2m} + \sum_{i < j} V_{\text{int}}(|\mathbf{r}_i - \mathbf{r}_j|) + \sum_{i=1}^N V_{\text{wall}}(\mathbf{r}_i; V) \quad (1)$$

と表わす。 $V_{\text{int}}(r)$ は粒子間距離が r のときの相互作用ポテンシャルで $V_{\text{wall}}(\mathbf{r}_i; V)$ は壁との相互作用ポテンシャルをあらわす。

$$\Omega(E, V, N) \equiv \int d\Gamma \theta(E - H(\Gamma; V, N)) \quad (2)$$

および、

$$\Sigma(E, V, N) \equiv \frac{\partial \Omega(E, V, N)}{\partial E} \quad (3)$$

を定義する。

(1) 講義で例としてとりあげた、 $V_{\text{int}} = 0$ とみなしてよい状況を考える。また、 $V_{\text{wall}}(\mathbf{r}_i; V)$ は粒子を立方体に強く閉じ込める効果として扱う。熱力学極限において、

$$\log \frac{\Omega(E, V, N)}{N!} = \log \frac{\Sigma(E, V, N)}{N!} + o(N) \quad (4)$$

を示せ。

(2) ある $\omega(u, v)$ が存在して、熱力学極限で

$$\log \frac{\Omega(E, V, N)}{N!} \equiv N\omega\left(\frac{E}{N}, \frac{V}{N}\right) + o(N) \quad (5)$$

となることを仮定する。このとき、熱力学極限で

$$\log \frac{\Omega(E, V, N)}{N!} = \log \frac{\Sigma(E, V, N)}{N!} + o(N) \quad (6)$$

を示せ。